

慶應サブスペ連動型外科研修プログラムのご紹介



慶應サブスペ連動型外科研修プログラムでは、標準的な外科診療を安全・確実に実践し、国民の健康・福祉に貢献できる質の高い外科専門医の養成にとどまることなく、さらに専門性の高い外科関連サブスペ領域専門医を目指す専攻医を募集します。基幹施設となる慶應義塾大学病院では、1920年の創設以来今日にいたるまで、外科学「大教室制度」を構築・堅持し、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科を担当する各診療科が一つの教室として一致協力して効率的な外科専門医養成システムを運営してきました。今回、この大教室制度の利点、経験を十分に生かして外科関連サブスペ領域と直結・連動したプログラムを構成しました。

研修1年目、2年目は豊富な手術症例数とレベルの高い指導医を擁する連携施設で徹底的に臨床経験を積み、3年目はそれぞれの専攻医が希望する外科関連サブスペ領域に重点をおいた研修、基礎・臨床研究、国際学会発表も含めた学術活動を開始し、世界に羽ばたく Academic Surgeonを養成致します。

特徴1：圧倒的な手術経験数：本プログラムでは豊富な手術症例数を有する基幹施設、連携施設において、3年間で外科専門医必要経験手術数（350例）のほぼ2倍の手術・診療経験ができます。

特徴2：バランスのとれた診療経験に基づく進路選択：本プログラムは創設以来外科学「大教室制度」を構築している慶應義塾大学病院とその連携施設において、各種外科関連サブスペ領域の研修をバランスよく経験した後に、希望の進路を選択できるシステムとなっています。

特徴3：多様な連携体制に基づく地域医療への貢献：基幹施設や大規模連携施設で最先端医療を研修するだけでなく、地域医療を支える中・小規模施設、外科医の日常診療を支える基本手技や日帰り手術を実践する診療所まで多様な連携・研修体制を構築することにより、専攻医が裾野の広い技術と見識を体得できるよう配慮し、地域医療の活性化を図って参ります。

特徴4：サブスペ連動型の多様なプログラム：研修2年目には、各領域の必要手術経験数をほぼ完了し、研修3年目からは希望するサブスペ領域に重点をおいた手術研修や、その領域に関する基礎あるいは臨床研究を開始します。この段階で臨床研究に重点を置いた医療科学系大学院コース、基礎研究を主とする医学研究系大学院に入学するコースも選択できます

特徴5：世界に目を向けた学術活動の奨励：研修1,2年目から国内の多くの学術集会での発表、論文執筆に関する基本的トレーニングの機会を与え、3年目からは国際学会発表、英文論文執筆の指導を開始し、新しい知見を創出し、世界に発信できる真の Academic Surgeon の養成を目指します。

特徴6：専門医取得後の活躍の場を提供：外科専門医、外科関連サブスペ専門医取得後には、本プログラムの基幹施設、連携施設における指導者として思う存分活躍できる機会を作ります。多くの海外連携施設、研究機関への留学の機会を経て、世界の外科学、外科診療を先導する人材の育成を目指します。

平成28年9月

プログラム統括責任者

慶應義塾大学医学部外科学教室主任

北川雄光